

2017年(平成29年)5月23日

関係各方面の皆様

2017年度(平成29年度)

第44回

兼 第14回

全国 海外子女教育国際理解教育研究大会(長野大会) 北信越 B 海外子女教育国際理解教育研究大会

- 1 大会主題 世界と子どもをひらき、つなぎ、つむぐ教育をめざして
～ネットワークでつむぐ、明日の教育～
- 2 主催 全国 海外子女教育国際理解教育研究協議会
- 3 主管 北信越 B 海外子女教育国際理解教育研究協議会、長野県国際教育研究協議会
- 4 後援 外務省 文部科学省 公益財団法人海外子女教育振興財団
長野県教育委員会、長野市教育委員会、信濃教育会、JICA駒ヶ根
長野県小学校長会、長野県中学校長会、長野県特別支援学校長会
長野上水内教育会、日本教育公務員弘済会長野支部
- 5 会場 長野市生涯学習センター(TOiGO)
〒380-0834 長野県長野市鶴賀御所町1 2 7 1-3 電話番号 026-233-8080
JR 長野駅(善光寺口)から徒歩約 10 分
長野電鉄市役所前駅から徒歩約 5 分
アルピコ交通・長電バス「昭和通り」バス停下車 徒歩約 1 分
<http://www.city.nagano.nagano.jp/uploaded/attachment/77126.pdf>

6 日程 2017年(平成29年)8月3日(木)～8月5日(土)、6日(日)地域巡検

8月3日(木) 一般公開	9:30	10:00	11:20	12:00	13:30	14:30	16:30	17:00～
受付	全国代表者会 研究担当者会 ICT担当者会	文部科学省 講話	受付	開会式	トーキングテーブル 【1】初めての派遣への道 【2】再派遣・シニア派遣への道 【3】素材・教材化へのネットワーク 【4】未来にわたる在外教育施設		情報 交換会	

8月4日(金) 一般公開	9:30	10:00	12:00	13:30	16:30	17:00～
受付	特定課題分科会 グローバル人材を育てるための 【ネットワーク化】 【コミュニケーション能力の育成】 【派遣経験(and JICA 経験)を活かした教育活動】 【親日家育成プログラムの方向性】 【在外教育施設のありかた】	昼食	特定課題分科会 グローバル人材を育てるための 【ネットワーク化】 【コミュニケーション能力の育成】 【派遣経験(and JICA 経験)を活かした教育活動】 【親日家育成プログラムの方向性】 【在外教育施設のありかた】		情報 交換会	

8月5日(土) 一般公開	9:00	9:30	12:00	13:00	15:30
受付	実践事例発表会 ① 帰国児童生徒教育の実践、② 海外児童生徒教育等の実践、 ③ 外国人児童生徒教育の実践、④ 国際理解教育の実践 ⑤ 外国語活動・多言語活動の実践、⑥ 現職教師研修の実践 ⑦ 管理職の実践、⑧ 各都道府県組織研修会の実践	昼食	講演会 「グローバル化へ国際感覚を伸長 させるための英語実践教育」 信州大学名誉教授 渡邊 時夫 & ALT		閉会式

8月6日(日) 第四日目 午前 地域巡検(昼食後解散)
事前申込制(費用は入場料・昼食費のみ交通費は地元支援)

- 7 参加資料代 年会費納入者2000円 未納入者6000円
- 8 連絡・申込先 全海研 E-mail 44SANKA@zenkaiken.jp 締切り 7月 10 日
全海研 FAX 03-3804-7432
全海研 URL <http://www.zenkaiken.jp/>



9、開会行事

- ・主催者挨拶・外務省挨拶・文部科学省挨拶・(公財)海外子女教育振興財団挨拶
- ・長野県教育委員会・長野市教育委員会・信濃教育会
- ・JICA駒ヶ根・長野県小学校長会・長野県中学校長会・長野県特別支援学校長会
- ・長野国際親善クラブ・コミュニティネットワーク長野

10, トーキングテーブル 「グローバル人材を育てるための」

1 「初めての派遣への道」

責任者 金子、豆野、松越 + (長野県関係者)

世界中に293校あまりを数える在外教育施設に4万人を越える子どもたちが学んでいます。一口に在外教育施設といっても、日本人学校と補習授業校があり、日本人学校といえども10名程度の学校から、3,000人以上のところまであります。補習校も規模は様々です。文化や風習、生活スタイルが異なる異国で日本の教育を実施していくのが在外教育施設です。派遣される教師の方々の苦勞も、学校によりこれまた様々です。その中で、望まれる派遣教師像とは、どのような教師なのでしょうか。また、派遣教師自身は何を求めて挑戦するのでしょうか。そして、遠く離れた者同士の協力はどうかあるべきでしょうか。ますます発達するメディアを有効に活用するにはどうしたらよいでしょう。…様々な課題について大いに議論する必要があります。こうした話題について、気楽に自由に発言しながら、参加者全員に考える場を提供いたします。特に海外で自分の力を発揮したいという派遣希望者のみなさん、参加して大いに話しましょう。

2 「再派遣・シニア派遣への道」

責任者 阪間、藤内、古山 + (長野県関係者)

平成19年度に9名の派遣教員でスタートしたシニア派遣制度ですが、本年度全派遣教員約450名の内、シニア派遣教員(第1期)は約4人に1人、25%強を占める状況にまで増加しています。中でも管理職(校長・教頭)においては、実に約60%をシニア派遣教員が占めています。さらに派遣教員のいる42校の補習授業校は、シニア派遣が100%になっております。シニア派遣教員の場合、その大半が再派遣者ですが、若い頃の派遣とは異なり、60才を超え体力の衰え始めている年齢での派遣ですから、体力や気力は勿論のこと、精神面においても相当厳しい条件を抱えての職務となることを覚悟しておく必要があります。また、過去に経験のある再派遣とは言え、最初の派遣先が日本人学校であるケースが多く、シニアでの派遣先が補習授業校であった場合、その職務内容は日本人学校とは大きく異なり、ほぼ初体験の職務になると予想しなければなりません。加えて、日本人学校への派遣であったとしても、小規模・中規模校の場合は校長・教頭でも10時間から20時間程度の授業を受け持ちながら管理職の職務も担わなければならないといった現実があります。多くの困難を伴うのがシニア派遣であると言わざるを得ません。この様な現実を踏まえ、このトーキングテーブルでは、シニア派遣希望者の様々な疑問や不安を少しでも減らしてもらい、意欲と自信を持ってチャレンジしていただけるように配慮して進めることにしています。シニア派遣経験者のレポートを基に、参加者の声をしっかり引き出す学習の場にしたいと思っておりますので、希望をお持ちの方は是非ご参加ください。

3 「素材・教材化へのネットワーク」

責任者 久富、小野、原田、小川

国内外を問わず、気候、文化、風習…こうしたものは、その土地に住む人の生きる知恵を育んできました。私たちが考える常識は別の地では非常識となり、またその逆もあり得ます。在外教育施設に派遣された先生方は、それらを体験し、記録されてきたことと思います。また、派遣されていない先生方におかれましても、地域ごとの相違点について着目されている方もいらっしゃるでしょう。先生方がお持ちのそうした多くの「素材」を、子どもたちの価値観や見方・考え方を広げ、偏見をなくし、未来への知恵とつなげていくための「教材」として活用できないかと考えます。そのために、国内外に存する素材を集め、教育現場に生かせる教材として活用するためのネットワークが必要です。どんな素材を、どのように生かしていくことができるかを、より多くの皆様と考え、実行していきませんか。「いつでも・だれでも・どこでもできる国際理解教育」の一つの道筋がここにあると考えています。ぜひ皆さまと明日の教育を考えていきたいと思っております。

4 「未来にわたる在外教育施設」

責任者 三井、高口

・グローバル化する世界の状況の中で、よきグローバル化のために、在外に現存している日本人学校・日本語補習授業校は今後、どのように運営し、教育活動を活動を展開していったらよいのか、皆さんのお知恵を拝借し、現状を改革していくために一石を投じていきたい。ここでは、思いついたこと等、何でも自由に発言していただき、在外の子どもたちが世界をつなげる原動力になりうるか、今後の在外教育施設の在り方について、それぞれの立場で実際に運営していくつもりで考えてみませんか。

11, 特定課題分科会 「グローバル人材を育てるための」

第1分科会 【ネットワーク化】

会場係 長野県

在外教育施設に派遣された先生方、または個人で外国との関わりを持っている先生方が持っている資料や、写真等を教材として活用する方法について紹介します。また具体的な写真や資料を用いてワークショップや授業作りのヒントを考えることも考えています。児童・生徒が多様な価値観を持つための教材、互いの違いや異文化を認め合うための資料のネットワーク作りを共に考えていきましょう。

小川 文徳(長野・松本市立筑摩野中学校)

原田 英聖(兵庫・神戸市立住吉中学校)

両角 明浩(長野・阿智村立阿智第二小学校)

第2分科会 【コミュニケーション能力の育成】

会場係 長野県

新学習指導要領の中心である「主体的・対話的で深い学び」を行うには、その基礎となるコミュニケーション能力の育成が必要です。ここでは、①コミュニケーションのベースとなるボディランゲージや言葉 ②発達に課題のある児童・生徒のコミュニケーション③IB(国際バカロレア)における深いコミュニケーション について提案し、それをもとに交流して新たなものを生み出します。「ただ言葉が交わればよい」というコミュニケーションを超えて、「コミュニケーションの本質」について考え、明日からの学級経営や授業を変える契機にしていきたいと思います。

山本 直子(埼玉・所沢市立南小学校)

御菩薩池好行(埼玉・所沢市教育委員会)

三好 健夫(東京・都立府中けやきの森学園)

第3分科会 【派遣経験(and JICA 経験)を活かした教育活動】

会場係 長野県

・異文化を見てきた派遣教師は、ダイナミックに人々の生活の知恵を垣間見ている。そのエネルギーは豊かなだけでなく、人々の生きる事への莫大なエネルギーが源になっているのを感じてきた。そのことを教育の世界で、児童・生徒に伝え、育むことができる教育はどうか共に考えていきたい。

小林 寿美(東京・足立区立第四中学校)

小野 博史(北海道・札幌市立藻岩北小学校)

第4分科会 【親日家育成プログラムの方向性】

会場係 長野県

- ・派遣教師の経験を生かしながら、多様な文化を理解し、現在、日本に在住している異文化習得者の方々に、日本文化に触れる活動を通して日本文化を理解していただくために、どのような経験を生かしたらよいかご検討いただきたい。

松越 正純(富山・富山教員委員会)
豆野 朋雄(三重・四日市市立常磐西小学校)
長野県(長野・)

第5分科会 【在外教育施設のありかた】

会場係 長野県

- ・国境という概念が薄れ、グローバル化する世界の状況の中で、真のグローバル化とはどうあるべきかについて、皆さんのお知恵を拝借すると共に、大人(教師)の視点、子供たちの視点、保護者の視点で整理し、在外に現存している日本人学校・日本語補習授業校は今後、どのように運営し、教育活動を展開していったらよいか、教材開発からカリキュラムマネジメントまで含めて、具体的な方向性を模索し、現状改革のために一石を投じていきたい。

三井 知之(東京・杉並区立桃井第五小学校)
高口 和治(新潟・新潟市立東石山中学校)
山岸 崇(長野・中野市立平野小学校)
中島 緑朗(北海道・芽室町立芽室南小学校)

12. 実践事例研究発表会(公開第3日目の午前)

(一人発表20分・質疑5分・移動5分) 下記項目から実施致します。

(発表希望者は申込用紙によりFax&E-mailで申し込み先へ)

- ① 帰国児童生徒教育の実践(適応教育、教科学習教育、日本語教育等)
- ② 海外児童生徒教育等の実践(日本人学校、補習授業校等)
- ③ 外国人児童生徒教育の実践(適応教育、教科学習教育、日本語教育等)
- ④ 国際理解教育の実践(小・中学校での実践、資料・教材作成等)
- ⑤ 外国語活動・多言語活動の実践(小学校、小・中連携指導、ALTとの連携等)
- ⑥ 現職教師研修の実践(学校単位、教委単位等)
- ⑦ 管理職の実践(海外学校運営、現場教師向け、他校管理職向け、社会教育向け等)
- ⑧ 各都道府県組織研修会の実践(派遣前研修、指導者養成研修等)

1 第一発表会場

司会 宮本泰成、記録 石川晶子、会場係 両角

- 1-1 (9:30~10:00)
- 1-2 (10:10~10:40)
- 1-3 (10:50~11:20)
- 1-4 (11:30~12:00)

塚本康一(福井)
立石勝利(長野) 青年海外協力隊員の経験を生かし、JICAとも連携しながら国際理解教育に取り組んでいる実践
高木浩志(兵庫)

2 第二発表会場

司会 三野州豊、記録 井表照雄、会場係 滝沢

- 2-1 (9:30~10:00)
- 2-2 (10:10~10:40)
- 2-3 (10:50~11:20)
- 2-4 (11:30~12:00)

竹内直子(石川)
小池澄夫(長野) 一校一國運動で地雷の被害に苦しむボスニア・ヘルツェゴビナとルワンダとの交流を通して平和学習

3 第三発表会場

司会 越村晃吉、記録 吉田貴弘、会場係 白鳥

- 3-1 (9:30~10:00)
- 3-2 (10:10~10:40)
- 3-3 (10:50~11:20)
- 3-4 (11:30~12:00)

源甲斐裕子(富山)
坂口 昌子(長野) 様々な政治状況を乗り越えながら、韓国の小学校と相互に訪問して、互いの文化を直接に学んでいる実践

4 第四発表会場

司会 久川 寛、記録 清水哲也、会場係 佐藤

- 4-1 (9:30~10:00)
- 4-2 (10:10~10:40)
- 4-3 (10:50~11:20)
- 4-4 (11:30~12:00)

渡辺 登(新潟)
片桐園子(長野) 生徒会を中心に、相互交流を行い、トルコとの結びつきを強め深めていった実践

5 第五発表会場

司会 小松秀樹、記録 原口憲治、会場係 三澤

- 5-1 (9:30~10:00)
- 5-2 (10:10~10:40)
- 5-3 (10:50~11:20)
- 5-4 (11:30~12:00)

井澤 昭(長野) 一度途絶えていた、台密との国際交流を、台湾での派遣教員の経験者が新たにコーディネート
星野 慎(長野)

13. 講演

- ・「グローバル化へ国際感覚を伸長させるための英語実践教育」

信州大学名誉教授 渡邊 時夫 & ALT

英語教育の現状、次期学習指導要領改訂による「2020年度実施の英語」への対処、今後の課題、対策・実践、英語専科でない教師の対処等から今から出来る実践について。

14. 地域巡検

担当 池田純一・小林光義(長野県)

- ・日本人として、当然知っているべき地誌的価値のあるもの

しょうざん
(象山地下壕(大本営移転の為に設営した地下壕)、真田家関連地籍)

(近くに存在するリンゴ生産地、蕎麦栽培地、ラグビー合宿地、温泉治療施設等は、ご自由にどうぞ)